M N u S е u m е W S

Art Spaces in Gunma from 1970 s to 1990

Waking Space

TOP APT

### 上段左から

高田博厚《美しきエミーII》 1963年 セメント、着色 群馬県立近代美術館蔵 河内世紀一《無題》 1977年 油彩・カンヴァス 作家蔵 榎倉康二《干渉》 1990年 アクリル塗料・カーペット、豚革 個人蔵 [コンセプトスペースでの展示風景]

### 下段左から

吉田富久一 《Nature's Engineering No.443》 1996年

アクリル・和紙、アルミ脚立 作家蔵 [ノイエス朝日での展示風景] 白川昌生

《赤-彫刻》 1987年 オイルパステル、鉛筆・紙 群馬県立近代美術館蔵











# 2023年1月21日[土]-4月9日[日]

**場:**展示室 1、ギャラリー

休館 日:毎週月曜日

開館時間:午前9時30分-午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料:一般700(560)円、大高生350(280)円

)内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

治初期に創業した書店、煥乎堂は、前橋の店舗内で古くから美術展などを開 催し、1960年代後半に白井晟一設計の新店舗にギャラリー専用スペースが 設けられると、年間を通してさらに多彩な展示を行うようになります。そこでは 群馬県関係作家を中心に広く国内外の美術が紹介され、特に創業家の高橋元吉と 縁の深い高田博厚を中心とした一元会展や県関係作家をセレクトした煥乎堂美 術展といったアニュアル展は、その活動を特徴づけるものとなっていきました。

20世紀後半を通して作家や文化人が分野を超えて集い交流する場となった 〈煥乎堂ギャラリィ〉のほかにも、群馬県内にはこれまで様々な"アートのための 場所"がつくられてきました。1970年代の〈ぐんまアートセンター〉、80年代か ら現在も活動を続ける〈コンセプトスペース〉、80年代から 2000年頃まで活動 した〈アートハウス〉は、すべて作家主体で運営され、地域の作家たちに発表の 場を提供するだけでなく、国内外の同時代美術を紹介する役割を果たしてきまし た。さらに90年代、白川昌生らによる「場所・群馬」の活動拠点になると同時に 積極的に海外作家を招聘した〈北関東造形美術館〉は、専門学校の付属施設とし ての役割を超えた独自の活動を展開しました。

この展覧会では、〈煥乎堂ギャラリィ〉を中心に 1970年代から 90年代に群馬 県内で活動した主なアートスペースの歴史を振り返り、多様な人々が集い、新た な創造を生み出す場となったそれぞれのスペースの特質や県内アートシーンに 果たした役割を検証します。

#### [関連イベント]

担当学芸員による連続講座 [聴講無料・申込不要]

- 炒手堂ギャラリィ
  ぐんまアートセンタ 1月29日[日]
- 2月11日[土・祝]
- 3 コンセプトスペー 2月26日[日]
- 3月26日[日] ートハウス

5 北関東造形美術館 4月 9日[日]

時間:14:00~15:00/会場:当館2階 講堂/定員:各100名(先着順)

※新型コロナウイルスの感染状況等により開催を中止または内容を変更する場合があります。 最新情報は当館ホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。









「資料] 上から

「第 16回煥乎堂美術展」案内状 煥平堂、1976年 「ぐんすアートセンター」 ぐんまアートセンター、1975年 「ロジャー・アックリング展」案内ハガキ コンセプトスペース、1985年 「アートハウスの 10年」 展チラシ アートハウス、1998年

「第2回場所・群馬」展案内ハガキ 北関東造形美術館、1995年

ユース No.1



(1)

ゴ

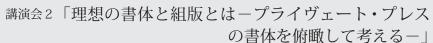
秋の企画展示「理想の書物 – 英国19世紀挿絵本からプライヴェート・プレスの世界へ – 」展では、19世紀の挿絵本や版画、そして印刷の歴史の専門家による講演会を開催しました。

## 講演会1「イギリスの書物の魅力」

講師:永山多貴子氏(郡山市立美術館 学芸員)

10月16日(日)

本展では郡山市立美術館が所蔵する 19世紀イギリス美術のコレクション、「ローダー・コレクション」より、多数の貴重な書籍をご出品いただきました。同館学芸員の永山氏による講演会では、出品作品を中心に 19世紀イギリスの挿絵本の魅力をお話しいただきました。特にトマス・ビューイックによって広められ挿絵印刷に革新をもたらした木口木版の制作方法について、版木の実物を見せていただきながら、木口とは木を横に切断して作られる非常に堅い板であることや、線を彫り残す凸版であること、また、この技法で細かい描写を行うことがいかに超絶な技巧を要するかを、わかりやすく解説いただきました。



講師:木谷正人氏

(株式会社凸版印刷印刷博物館印刷工房インストラクター・研究員)

11月5日(土)

印刷博物館の研究員木谷氏の講演会では、19世紀プライヴェート・プレスにおける書物制作と、そこに携わるさまざまな人々の技術や創造性についてお話しいただきました。紙面や文字を設計するデザイナーの仕事、鉛合金製の活字の原型を彫刻する「パンチカッター」(活字父型彫刻師)の仕事、15世紀にグーテンベルクがブドウ圧搾機から着想を得て作り出したものに始まる印刷機の19世紀における技術革新、印刷工程を担う「プレスマン」(印刷工)の仕事、装丁の仕事など、本の制作には印刷の誕生以来、多くの人の英知と技術が注がれてきました。「歴史は人間の美学が形作る」という結びの言葉には、デジタル時代にも忘れられてはならないモノ作りへの愛が溢れていました。



永山多貴子氏



木谷正人氏

T o p i c s

現在、友の会では令和5年度の会員を募集しています。友の会は、会費や館内ショップの利益を活用し、近代美術館を支援している団体です。会員には県内5つの美術館の観覧料が減免になるなど、様々な特典があります。是非この機会にご入会ください。

## 会員の種類と年会費 [有効期間は 4/1~翌年 3/31]

一般会員 2,000円/学生会員 1,000円

家族会員 [同居 2人分] 3,000円 [3人以上は 1人につき 1,000円追加] 個人賛助会員 [一口] 10,000円/法人賛助会員 [一口] 20,000円

#### 観覧料が減免となる美術館

群馬県立近代美術館・群馬県立館林美術館 [両館あわせて年間 2回無料、ほか半額] 高崎市美術館・高崎市タワー美術館・高崎市山田かまち美術館 [団体割引相当額]

#### ◆講演会「絹糸と私」開催のお知らせ

友の会主催のシリーズ講演会「この人に聞きたい」の14回目となる今回は、2019年に当館で開催した展覧会「長島有里枝×竹村京「まえといま」」の出品作家、竹村京氏に「絹糸と私」と題して、ご自身の制作と群馬の絹産業との関わりなどをお話ししていただきます。皆様のご来場をお待ちしております。

開催日時: 2023年 3月 11日(土) 14:00~15:30/会場: 講堂/定員: 100名(先着順) [聴講無料•申込不要]

友の会だより

## Collection

コレクション展示

# 「展示室 2・6]

### ■日本と西洋の近代美術Ⅲ 1/14~4/9

当館の収蔵品より、印象派から20世紀前半の西洋近代絵画なら びに彫刻、群馬ゆかりの作家や明治から昭和を代表する作家た ちによる日本近代洋画を展示します。



カミーユ・ピサロ 《エラニーの教会と農園》 1884年

# 「展示室3]

### ■現代の美術Ⅲ 1/14~4/9

20世紀後半から現代までの美術作品を紹介します。



# 「展示室4]

- ■マティス『ジャズ』 1/14 ~ 2/26
- ■ジョゼフ·アルバース『形成·連接』 2/28 ~ 4/9

鮮やかな色彩と、切り紙から生まれたユニークな形が楽しい、ア ンリ・マティスの版画集『ジャズ』、そして色彩と形態による造形 上の実験をあらゆる角度から続けてきたアルバースの集大成『形 成・連接』をご紹介します。

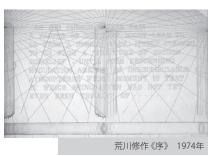


アンリ・マティス『ジャズ』より 《礁湖》 1947年

# ■荒川修作 1/14~4/9

「展示室5]

当館の寄託作品より、1960年代から 2000年代まで世界 的に活躍した美術家荒川修作による60-70年代を中心と した絵画、版画作品を約15点展示します。



# | 展示室 7 (山種記念館) |

- ■上毛三山をえがく 赤城・榛名・妙義 1/14~2/26
- ■墨のカー近現代の書ー 2/28 ~ 4/9

「上毛三山をえがく」では、群馬を代表する山として広く 親しまれている赤城山、榛名山、妙義山を描いた作品を、 「墨のカー近現代の書ー」では、大澤雅休や中島邑水、井 上有一など、新たな書の表現を追い求めた作家たちによ る作品をご紹介します。



昨年度、工事休館のため開催できなかった「美術館アートまつり」を、今年度は開催します! 誰でも楽しめるプログラムをご用意しますので、ぜひご参加ください。

- ※参加には事前申込みが必要です。申込み方法はちらし、当館 HP でお知らせします。 ※開催日の午前、午後の入替制となります。
- ※新型コロナウイルスの感染状況等により、内容を変更または中止する場合があります。

# 2023 年 2 月 5 日(日)

午前(10:00~12:00)/午後(13:00~15:00) 各定員100名

- **①** ひつじさんたちのセーター
- ② 魔法使いになろう! [企画·実施:群馬県立女子大学 奥西ゼミ]
- **②** ちらしリメイク工房 part2
- ④ 君は名探偵!

# 2023年3月5日(日)

午前(10:00~12:00)/午後(13:00~15:00) 各定員100名

- ⑤ 子どもアート回路 part2 [企画・実施:寺澤事務所・工房+一般社団法人メノキ]
- ⊙ さがして、つくって イースターパーティー

[企画・実施:群馬県立女子大学 奥西ゼミ]

- ₩ 展覧会ポスタープレゼント
- 3 アートなミッション

N M 11 е 11 m 0 W S S

一下時代後期に活躍した禅僧である仙厓義梵は、寛永3(1750)年、美濃国武儀郡(現在の岐阜県美濃市近郊)に生まれ、11歳で得度、地元の清泰寺、武蔵国永田(現在の神奈川県横浜市)の東輝庵で臨済宗古月派の禅僧として修行を積んだ後、諸国を行脚した。日本最古の禅寺である聖福寺(博多)の住職となり、伽藍の修復や弟子の育成に努め、62歳で境内の虚白院に隠居。簡素な生活を送りながら得意の書画を制作し、飄逸でユーモアのある画風によって、人々から親しまれる作品を数多く残している。

作品名の万才(萬歳)とは、新年に家々を訪れて祝言を述べ、繁栄を祈る伝統的な祝福芸 (門付)の一つで、いわゆる漫才の元となったといわれる芸である。しかし、本図では万才で用いられていた装束や人数とは異なり、和傘をさして御幣をかつぎ、烏帽子をかぶり素襖を着て、鐸(銅拍子)を打ち鳴らす人物が 1人描かれる。讃には「毎歳孟春 天原降神振鐸徇路 怖言遒人」とあることから、画題は万才というよりも、古代の中国で皇帝や政府の命令を民に伝えるために、鐸を打ち鳴らし道を巡ったという「遒人」(官吏)や、御幣などの装束から鹿島明神の御神託と称して、正月に銅拍子を鳴らしその年の吉凶や天変地異を触れ回った「事触れ(鹿島の事触れ)」だと考えられよう。「事触れ」は本来、鹿島神宮の下級神人によるものだったが、江戸時代にはそれに似せた格好で新年を祝い、歌い踊って米や銭を得た一種の芸人となっていて、「伊勢の鍬神」などと同じ類とされる。なお、本図に似た作例に《言触画賛》(出光美術館蔵)がある。

足元の犬に吠えられる男性の、なんと無頓着で気楽な様子か。仙厓の禅画は、高尚な禅のモチーフではなく、庶民の生活に根差した馴染み深い対象を軽妙な筆致で描き出す。良くも悪くも人間らしい部分への肯定的な仙厓のまなざしが、素朴さや緩さを感じさせる表現と相まって、彼の作品の魅力となっているのであろう。



仙厓義梵《万才図》 江戸時代 紙本墨画・軸装 103.3×28.7cm 戸方庵井上コレクション

次回展覧会案内

# 杉浦非水

# 時代をひらくデザイン

2023年4月22日[土]-6月18日[日]

**会 場:**展示室 1

休館日:毎週月曜日(5月1日は開館)

観覧料:一般900(720)円、大高生450(360)円

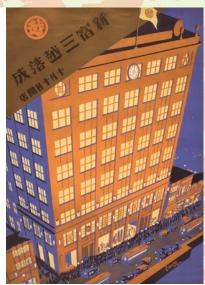
\*( )内は20名以上の団体割引料金

\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

浦非水(1876~1965)は明治から昭和にかけて活躍した日本のグラフィックデザインの第一人者です。

愛媛県松山市に生まれた非水は、画家を志して出た東京で洋画家の黒田清輝と知り合います。黒田がフランスから持ち帰ったアール・ヌーヴォーの資料をきっかけに図案家の道に進み、三越呉服店でPR誌や宣伝ポスターなどのデザインを手がけ、そのブランドイメージ創出に寄与しました。さらに図案集の作成やデザイン雑誌の刊行、多摩帝国美術学校の創立に尽力して図案科教授を務めるなど、日本のデザイン意識の普及、育成に大きな役割を果たしました。

本展では愛媛県美術館のコレクションを中心に、ポスターや図案、装丁の仕事、スケッチや『非水百花譜』などの作品、また、インスピレーションの源となった写真やスクラップブックも含めた300点以上により、非水の生涯にわたる功績を紹介します。



《新宿三越落成 十月十日開店》 1930年 愛媛県美術館蔵

群馬の大林



群馬県立近代美術館

〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1 TEL 027-346-5560 FAX 027-346-4064 https://mmag.pref.gunma.jp

デザイン: 寺澤事務所・工房 印 刷: 上毎印刷工業株式会社